

絲綢之路

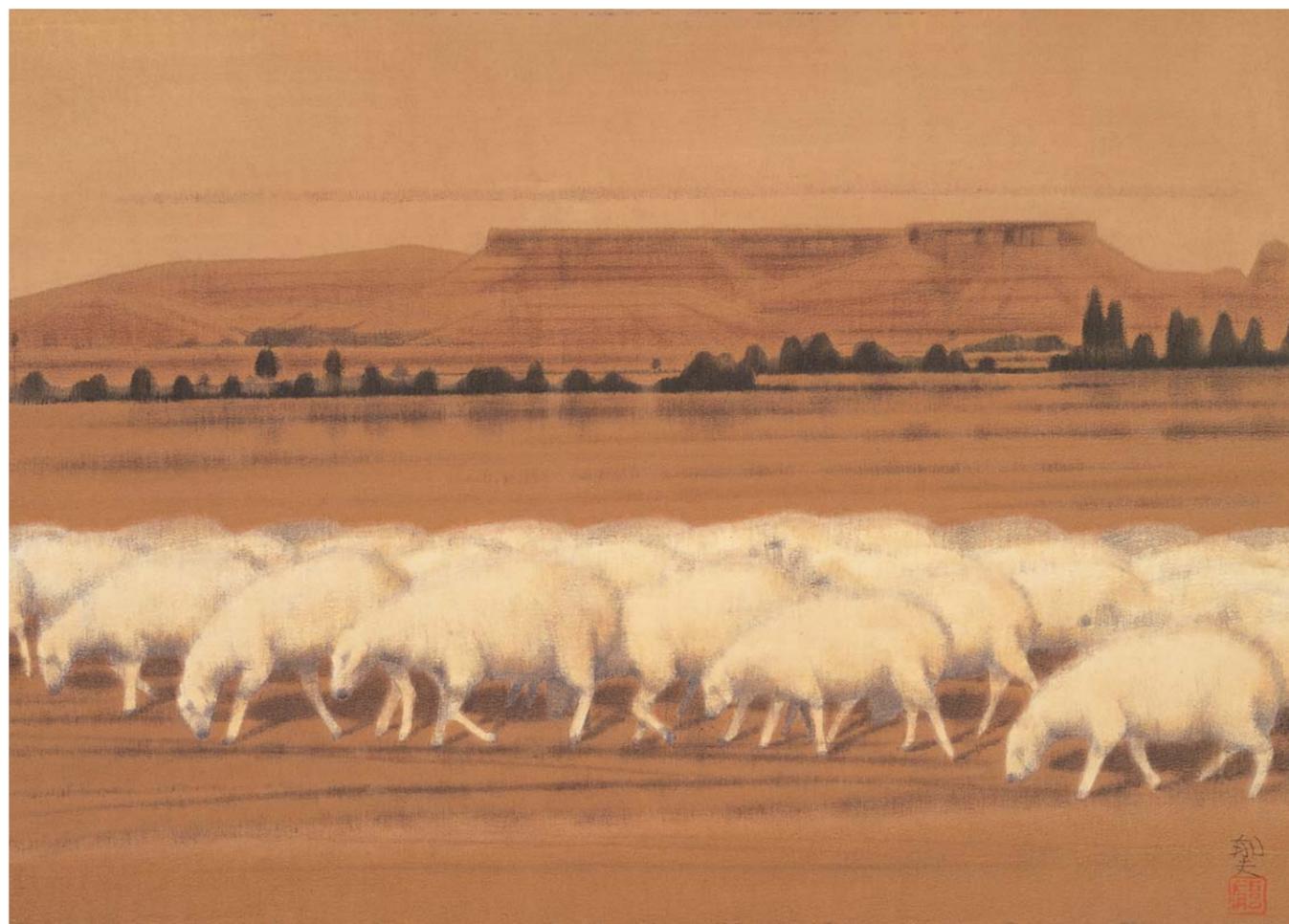
シルクロード

S I L K R O A D

2015-新春

No.77

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



羊群帰牧図 1968年



【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二



夢と理想を追い求めて

新年明けましておめでとうございます

昨年末の突然の衆議院解散、総選挙には、正直に申しまして驚きました。政治の世界は時に理解がたい難しい問題があるようです。

漱石門下の俊英で物理学者としても名高い寺田寅彦は「天災は忘れた頃に来る」という警句を残しています。ところが近頃は、忘れる前に次から次へと天災に見舞われ続けている感じがいたします。

昨年も集中豪雨による各地で起きた土砂災害、火山災害としては戦後最大の犠牲者を出してしまった御嶽山の噴火など辛く悲しいニュースが続きました。また、東南海地震、富士山の噴火なども囁かれつつあり、日本列島はこの先どうなるのだろうか、案じられます。

また、目を外にむけますとエボラ出血熱の流行やイスラム国台頭など解決の目処の立たない問題が山積。多くの方たちが暗澹たる想いに陥ったのではないのでしょうか。

そうした世情の中で青色LEDの研究・開発で、赤崎勇、天野浩、中村修二の三氏がノーベル物理学賞を受賞されたことは一筋の救いの光だったと思います。

冒頭から暗い話題の多い話になってしまいました。話が、さて、今年はどうでしょうか。

話は少し飛躍するかもしれませんが、創立百周年を迎えた宝塚音楽学校のモットーは、創設者である小林一三翁が唱えた「朗らかに清く、正しく、美しく」です。

私も多くの人々が、こうした気持ちをもって事

に当たれば道は自ずと開かれるのでは、と思えます。また、そう信じたいと願っています。

東日本大震災による被災文化財の復旧支援活動も五年計画の四年目に入ります。被災地の現状については、本文に詳細が報告されており、建設物などは修理予算に見合った資金が集まらず、工事が頓挫しているという話も届いております。

去りゆく時間というものは、時に無情です。私は未曾有の大震災といわれた、あの二〇一一年三月十一日の出来事が時の移り変わりと共に人々の脳裏から薄れ、風化していくことを恐れます。

被災地の復興にはまだまだ多くの時間と人の力、費用を必要とします。私たちは当初の予定を変更することなく被災文化財の復旧支援活動を通じて現地の復興に協力してまいります。その意味でも一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

昨年十月、恒例の日中韓文化交流フォーラムが韓国の釜山広域市で開かれました。文化を通して東アジアの繁栄と安定に貢献しようではありませんか、という発想のもとで発足したこのフォーラムも、十年目という節目の年を迎えました。その模様は本文のほうに譲りますが、釜山で味わった一つの大きな感動を書かせていただきます。

御記憶に残っている方も多いと思いますが、一昨年の新潟市と佐渡市で開かれたフォーラムにおいて、私たちは日中韓の三カ国の人々が共に歌える歌を……ということで、作家の夢枕獯さんの作詞、東京藝術大学の松下功教授の作曲による「わ

たしは未来」という曲を披露、提案いたしました。その際、歌詞も中国語、韓国語に翻訳したものを用意いたしました。

あれから一年、日本では佐渡の相川小学校の生徒さんに歌っていただきましたが、韓国では釜山の現地の小学生の皆さんが暗譜で韓国、中国、日本の順でそれぞれの国の言葉で歌ってくださいました。場所は「映画の殿堂」の小劇場。折しも釜山国際映画祭が開催中とあって、会場内には映画関係の方々の姿も多く見られました。ホヨン・エンジェルズ合唱団と名乗るだけあって、その声は実に美しい響きを持っておりました。歌声が消えた時、私は思わず「ブラボー」と叫んでしまいました。その後、私は感動の涙をこらえることが出来なかったのです。

これこそ歌が取り持つ「心の絆」とでも申せましょうか。日中韓文化交流フォーラムの舞台は本年は中国です。今度は中国の大地で美しいハーモニーが聞けることを願う次第です。

皆様御承知の通り、人間が他の生物と異なるものの一つは文化・芸術を有していることです。私たちは人の心を癒し、豊かにする文化・芸術に課せられた使命を全うすべく本年もその発展に寄与してまいります。

しかしながら、文化を守り、維持していくこと、こうした活動を継続することは多くの皆様の物心両面にわたる多大な御協力が必要です。

どうか本年も私どもの意をお汲み取りのうえ、よろしく御指導、御鞭撻賜りますようお願い申し上げます。



理事長
宮田 亮平
みやた りょうへい

カトマンズの谷

(ネパール連邦共和国)



ユネスコ世界遺産(文化遺産)シリーズ ©UNESCO

ヒマラヤ山脈の麓、標高三五〇メートルの盆地にネパールの首都カトマンズや古都パタンやバドガオンがある。ここではヒンズー教と仏教が共存し、ネワール文化の花を咲かせた。中でもヒンズー教寺院、仏教寺院、貴族の館などが密集して立ち並ぶダルバール広場は有名である。

「カトマンズの谷」は、急激な都市化によって二〇〇三年には危機遺産リストに登録されたこともあったが、ネパール政府をはじめとする関係諸機関の努力によって二〇〇七年にリストから削除された。

(一九七九年に文化遺産として登録)

公益社団法人

日本ユネスコ協会連盟

被災文化財の再生事業と心の絆



悪夢のようなあの大地震・大津波から、まもなく四年目。壊滅的被害を被った岩手県陸前高田市に見る復興の槌音と共に進められる被災文化財の救済事業の現状と太平洋を越えて届いた心暖まる友情に触れる。

はじめに

二〇一一年三月十一日、わずれようとしても忘れることの出来ない自然災害が日本列島の東北地方を襲いました。東日本大震災です。巨大地震と大津波は多くの尊い人命と人々の財産を奪っていきました。あれから四年目の時がまもなくやって来ます。被災



奥州市埋蔵文化財センターで実施した拓本の安定化処理

津波で泥まみれになった啄木歌碑の拓本

害は貴重な文化財にも及んでいます。復興の掛け声と共にこうした文化財の現状はどうなっているのでしょうか。

最も大きな被害を被った岩手県陸前高田市にその答えを求めてみたいと思います。陸前高田市では、救出された文化財の数を以下のよう把握しています。「市立博物館」の所蔵品二十三万点の内二十二万点、「海と貝のミュージアム」では十二万点の内八万七千点、「文化財調査室」では十四万点の内十三万五千点、「市立図書館」では八万冊の内一万八千冊が救出されました。五十六万点の文化財が被災し、流出を免れたのは四十六万点です。岩手県下における被災文化財は陸前高田市の数字で代表できることから、東北で被害を被った文化財は約百万点だと推測されています。それらを全て処置する場合、掛かる費用の平均が一点一万円とすれば総額百億円、十億円とすれば一千万円になります。今後十年間でそれらを処置するとすれば、年間当たり十億から百億円が必要になります。平成二十四年度から国が支出し



本格修理を終えた啄木歌碑拓本

の平均が一点一万円とすれば総額百億円、十億円とすれば一千万円になります。今後十年間でそれらを処置するとすれば、年間当たり十億から百億円が必要になります。平成二十四年度から国が支出し

ている被災ミュージアム復興事業費は、前記の推定の下限である年間十億円ほどであり、最低でも今後七年以上の支援がなくてはなりません。

二〇一一年四月に発足した文化財レスキュー活動は、それまでの経験の蓄積が功を奏し、阪神淡路大震災当時とは比べられないほどの力を発揮しました。特筆すべきは、全国の博物館、美術館、図書館、文書館の専門家たちが立ち上がり、二年間で延べ六千八百十一人が参加して、東北地方の博物館二百八十六館、図書館二百五十六館のレスキューに当たったことです。

もちろん全てが巧くいった訳ではありません。大量の瓦礫に行く手を阻まれ、トイレや飲み水が整わない高温多湿な環境下で行う過酷な作業、破傷風への恐れなど、装備や身体能力の貧弱さから作業が進まない場面もありました。人命には比べられません。腐敗の進行や菌の繁殖が深刻になりつつある状況では、迅速な救出が必要でしたが、結果的には岩手県では二〇一一年六月末に大方のレスキューを完了し、宮城県では十二月末、福島県では現在もレスキューが継続している状況です。

安定化そして再生への挑戦

津波で被災した文化財は、海水に含まれる塩分、海底のヘドロ、津波に混入した生活排水に含まれる雑菌類など、さまざまな汚染物質が染み込んでいます。被災現場から救出された文化財は、安全な場所



ケネディ駐日アメリカ大使から戸羽太市長に送られた貝標本 (東海新報社提供)

「かもめ」の返還を喜ぶ高田高校の生徒たち (東海新報社提供)

同時に資料に対する本格的な処置も始まりました。脱塩、除泥、除菌を行う安定化処理です。淡水に浸かった紙文化財に対する事例として、一九六六年十一月に起きたイタリア・フィレンツェのアルノ川の大洪水があります。が、今回は他にも沢山の種類の文化財があり、かつ海水損に対する処置の事例はどこにもありません。全てが手探りの状態で試行錯誤の連続でした。昆虫、貝類、植物、鉱物などの自然史標本、近現代の教科書や紙芝居、江戸時代の古文書、石碑を写した拓本、漁撈具や民具、近世の染織品、さらには油彩画や水彩画に至る美術品まで、極めて広範にわたる文化財を処置しなければなりません。塩分や汚泥を取り除くには真水に浸けて解かし出す以外に方法がありません。美術工芸品の安定化処理技術は、東京国立博物館、女子美術大学などの手によって開発が進められています。が、難易度が高いうえに対象となる作品の数も多いため、膨大な時間を要すると思われ

絆というネットワーク

震災当日、広田半島の東側にある六ヶ浦漁港から流出した岩手県立高田高校海洋システム科の実習船「かもめ」は、二〇一三年四月にアメリカ・カリフォルニア州クレセント市の海岸で発見されました。貝二ア州クレセント市の教授が陸前高田市の公式フェイスブックを通じて問い合わせたところ、同校の実習船であることが判明しました。そして、クレセント市の高校生が募金活動を通じて返還を働き掛け、企業の協力を得て、二〇一三年十月二十二日無事に陸前高田市へ届けられました。さらに同船に付着していたエボシガイとムラサキガイの標本は、同年十一月二十六日陸前高田市を訪れたキャロライン・ケ



ドイツ箱の中で被災した昆虫標本



処置を終えた昆虫標本

ネデイ駐日アメリカ大使から「特別な贈り物」として陸前高田市へ贈呈されました。全国の仲間たち、世界中の人々からの暖かい支援を得て、陸前高田市の文化遺産の再生は着実に進んでいます。植物や昆虫など自然史標本は国立科学博物館など全国数十の博物館等で安定化処理が行われました。拓本や古文書などの紙資料も岩手県立博物館を始め沢山の専門機関が支援してきました。それでも、安定化処理から本格修理までの行程を終えたものは十五万点弱で、全体の三分の一に満たない量です。今後ますます難しい処置が待ち構えています。全ての処理が終わるには十年以上の年月が必要であることを覚悟して、一歩ずつ進むしかありません。

他方、これからの災害に備えて機関や専門家同士のネットワーク、レスキュー体制の常設化のために『防災ネットワーク推進本部』が独立行政法人国立文化財機構に設置され、恒常的な組織を整えようとしています。また、東京国立博物館では特別展「311 大津波と文化財の再生」を開催して被災文化財再生の紹介、文化庁補助金を得て「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト」が実施する安定化処理ワークショップや解説書の発刊など、将来に備えるための活動も始まっています。

心の糧である文化財を災害から守ることができる社会の実現を目指して、古くからの絆、震災で生まれた新たな絆、それらをさらに広げ、深化させていきたいと思っています。



東京国立博物館 学芸研究部 保存修復課長 神庭信幸 (かみねのぶゆき)

註3 「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト」は、平成26年度文化庁文化芸術振興費補助金（地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業）の助成を受け、岩手県立博物館を中核館として、陸前高田市立博物館、兵庫県立歴史博物館、宮崎県総合博物館、東京国立博物館、日本博物館協会、NPO 法人文化財保存支援機構で構成するプロジェクト実行委員会が実施する事業です。

註1 <http://www.nich.go.jp/news/news/2014/09/140901bosai.html>を参照
註2 <http://www.tnm.jp/>を参照

義経記——静と義経を巡って

判官最良という言葉がある。薄命であった源氏の英雄源義経への人々の愛情と同情から生まれたものだ。静御前との悲恋をはじめ義経を巡る数々のドラマを「和楽の美」の舞台はどう演じたのだろうか。



東京藝術大学音楽学部 邦楽科教授 萩岡松韻 (はぎわか しゅういん)

音楽と美術の壮大な融和

二〇一四年十月八日、東京藝術大学演奏堂で、東京藝術大学演奏芸術センターと東京藝術大学音楽学部、美術学部主催による「和楽の美」公演を行いました。「和楽の美」は、二〇〇二年の邦楽劇「熊野の物語」からはじまった創作舞台です。本年度の「義経記」で十三回目の公演となります。



箏と尺八の見事なアンサンブルも「和楽の美」の聞きどころ

「和楽の美」はこれまで様々なテーマで公演して参りました。毎年創作を重ねる中で、このようなスケールの大きな舞台は東京藝術大学でしか成しえないものだと実感を深めるようになりました。そして我々邦楽科教員は、先達から受け継いだこの舞台を大切に育てていくべきではないかと考えるようになりました。「和楽の美」を一言で表現すれば、それは「藝術の融和」にあるように思います。「藝術の融和」はそれぞれのジャンルに敬意を払い、お互いを尊重し、手をたずさえる心から生まれます。

奏家人間国宝の竹本駒之助氏をお招きし、豪華な舞台となりました。私は音楽監督、制作統括者としてプロデュースさせて頂きました。「和楽の美」はこれまで様々なテーマで公演して参りました。毎年創作を重ねる中で、このようなスケールの大きな舞台は東京藝術大学でしか成しえないものだと実感を深めるようになりました。そして我々邦楽科教員は、先達から受け継いだこの舞台を大切に育てていくべきではないかと考えるようになりました。「和楽の美」を一言で表現すれば、それは「藝術の融和」にあるように思います。「藝術の融和」はそれぞれのジャンルに敬意を払い、お互いを尊重し、手をたずさえる心から生まれます。

その大きな要は音楽と美術の融和です。これは音楽・美術の両学部を有する東京藝術大学ならではのものです。これまでも様々な専門の美術学部教員等に協力を仰ぎ、共に舞台を創作して参りました。本年度は東京藝術大学美術学部建築科の北川原温教授、そして北川原研究室の方々に舞台美術をお願い致しました。音楽のみならず、舞台装置や美術、映像が駆使され、「義経記」の世界観が立体感を持ち、美しく描かれました。毎年の課題である多種多様な編成の音楽劇の転換もスムーズにいくことができました。最後には舞台映像で桜吹雪が舞い、客席からはその

美しさに感嘆するような驚きの声が増えて参りました。



「しづやしづしづのをだまきくり返し昔を今になすよしもがな」薄幸の白拍子「静」は日本史のヒロインのひとり

二つ目は、西洋音楽と伝統音楽との融和です。本年度は「和洋合奏フィナーレ」と題し、洋楽オーケストラと様々なジャンルの邦楽器とのフィナーレを飾る曲を、東京藝術大学演奏芸術センター教授兼副学長の松下功先生に作曲をお願い致しました。邦楽器だけでは表現し得ない世界観がそこには生まれます。これだけ大きな編成で、洋の東西を越えた演奏はなかなか実現し得るものではありません。

甦る義経伝説

日本舞踊、雅楽等の様々なジャンルの専門に分かれています。通常古典音楽では交流の少ないジャンルの専門家が一つの舞台を創り上げていき共演を果たします。例えば、雅楽と長唄と邦楽囃子や、箏曲と尺八と邦楽囃子……といった具合です。

弁慶「静と知盛」「義経千本桜」「静の苧環」等がそうです。今回の「和楽の美」では雅楽「変奏曲 越殿楽今様―神泉苑 雨乞い」、義太夫「義経千本桜―鳥居前・吉野山」、箏曲生田流・尺八・邦楽囃子「西に沈む―春の海によせて」、能楽 半能「船弁慶」、箏曲山田流「静」、能楽―調「勸進帳」(「安宅」より)、長唄・邦楽囃子「安宅勸進帳」、「フィナーレ」という流れで演奏致しました。これらの演目の中には古典曲の一部を演じたものもありますし、作曲・作詞・振付が新たになされた曲も含まれています。

「これからの「和楽の美」

これだけの大舞台を振り返ってみますと、脚本・演出の織田先生をはじめ、演奏芸術センターの先生方、特別出演の先生方、美術、作曲、演奏等、また舞台の裏方に携わって下さった多くの方々の支えの上にこの舞台が創られたのだと痛感いたします。ここで改めて謝意を表したいと思います。

今回の「和楽の美」は二〇一五年九月十一日に東京藝術大学演奏堂での公演が予定されています。今までの「和楽の美」で積み上げた経験を生かし、藝術の融和の舞台として発信を続けて参りたいと思っております。本年はどのように趣向を凝らし、新しい試みを行うか、是非お楽しみにして頂き、多くの方々にご覧頂きたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

これまでの「和楽の美」公演一覧

- 2002年邦楽劇『熊野の物語』
- 2003年邦楽劇『竹取物語』
- 2004年邦楽劇『賢治宇宙曼荼羅』
- 2005年邦楽叙事詩『スサノヲ』
- 2006年『今昔物語』
- 2007年新曲『浦島』
- 2008年邦楽で綴る『平家物語』 前編
- 2009年邦楽で綴る『平家物語』 後編
- 2010年邦楽絵巻『南都の夢 悟空ひとり旅』
- 2011年邦楽絵巻『悟空・韓国めぐり』
- 2012年邦楽絵巻『悟空と九尾の狐』
- 2013年邦楽絵巻『弁財天縁起』

筆者略歴

一九五七年、二世萩岡松韻の長男として生まれる。八〇年、東京藝術大学音楽学部邦楽科を卒業。この年、四代目を継承。文化庁芸術祭優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞等多くの賞を受賞。山田流箏曲秋岡派宗家であり、東京藝術大学教授として後進の指導にあたっている。



源義経と静の別れは義経記を飾るハイライト



西洋音楽と伝統音楽の融和。出演者が一堂に会しフィナーレ。指揮は松下功教授

上空から見た敦煌研究院が誇るデジタル展示センター外観。
世界最新のデジタル技術が採用されている



人類の至宝 敦煌莫高窟を守る人々

敦煌研究院創立七十周年記念式典に参列して

シルクロードの要衝として知られる敦煌。その象徴とも言える莫高窟は、世界に冠たる仏教遺跡として名高い。古希を迎えた遺跡の守り手である敦煌研究院の素顔にふれる。



東京藝術大学美術学部
芸術文化交流研究員
李 玉潤
(りぎよん)

敦煌莫高窟が世界から注目を浴びるのは一九〇〇年の「敦煌文書」の発見による。ユネスコによって莫高窟は一九八七年に世界遺産とされた。現在は「敦煌学」という学問分野が確立され、世界各国の研究者たちの関心を惹きつけてやまない。

一九四四年、敦煌莫高窟の保護と研究のために国立敦煌芸術研究所が創設され、運営を開始した。この研究所は後の「敦煌研究院」の前身ともいえるべき役割を果たした。

莫高窟の保護と研究に関しては、長い間、日本の考古学者、仏教学者、芸術家も多く力を注いできた。一九七二年の日中国交正常化後、様々の分野で両国の交流は活発となった。そうした流れの中で、一九九二年に日本政府からの無償援助によって敦煌石窟文物保护陳列センターが建設され、敦煌莫高窟の歴史と所蔵する多彩かつ貴重な文化財を良い環境の下で展示することが可能となった。

時は流れ、二〇一四年、敦煌研究院は創立七十周年を迎えることになり、その記念式典が九月八日から十二日まで開催された。

敦煌をめぐる新しい日中関係

九月九日朝、北京を飛び立った飛行機は一路敦煌へ向かう。眼下には浩瀚無限の荒涼としたゴビ砂漠が広がっている。私は、この風景を見てみると、なぜか意気消沈感に襲われてしまった。そうこうしている内に敦煌空港が視野に入ってきた。飛行機が最終着陸態勢に入る。次の瞬間、私は何とも言えぬ感動に浸っていた。真昼の太陽の光の下、金色に輝く巨大な建造物が眼に飛びこんで来たのだ。

仏教の経典の一つである「維摩経」の中に百花仙子という仙女が空から花を降らせる場面がある。このシーンは「天女散花」として中国では知られている。天女散花は莫高窟の壁画にも描かれている。空に



感謝状を持つ宮廻正明教授 (左)

煌研究院より研究員を受け入れることとなり、平山先生によって創設された文化財保護・芸術研究助成財団がそのための費用の一端を負担することとなった。一九八九年よりこのプロジェクトは始まった。そして今も

機関、文化財保護の専門家など多くの関係諸機関の代表が集う中、式は進められた。そこで、勳小捷国家文物局長と樊錦詩院長から東京藝術大学と（公財）文化財保護・芸術研究助成財団に対し、長年の助成、支援活動への御礼として感謝状が贈られた。砂漠地帯特有の冷気が会場を包んでいたが、それに優ったのが人々の熱気だった。式典参加者が一堂に集まり、シンポジウムも開かれた。冒頭、樊錦詩院長が敦煌研究院の歴史を総括し、敦煌莫高窟を守り、その研究に一心を捧げる「莫高精神」について説かれた。シンポジウムは白熱した論議が展開されたことは言うまでもない。

国内外の様々な機関、組織の協力を得て敦煌莫高窟は維持され、守られている。それだけにこの世界的な仏教遺跡への関心度は高いと言えよう。ゴビの大砂漠の中にある偉大な大画廊である遺跡を守り、次世代へ届けること、そして研究を発展させるこそ「莫高精神」であると思う。

未来に向かう敦煌学

敦煌を語る時、忘れてはならない人物は平山郁夫先生をおいて他にはいない、一九七九年に先生は初めて敦煌を訪問さ

れた。爾来、先生は幾度となく足を運ばれている。莫高窟は砂漠の中にある。洞窟内の壁画や塑像などにとっては厳しい環境なのだ。そうした状況を憂えられた先生は、遺跡の保存、修復の専門家を育成するプロジェクトを発表された。その結果、東京藝術大学は敦



敦煌研究院創立70周年記念式典会場。莫高窟九層樓前広場



調印式を終えて。左より筆者、東京藝術大学の宮廻正明教授、樊錦詩敦煌研究院院長、王旭東副院長、張小剛敦煌研究院考古研究所副所長

煌研究院が世界が注目する一つの学問となった。敦煌の研究に関しては日本と中国はほとんど同時にスタートした。しかし、その研究水準は日本がリードしている。「敦煌は中国にあって、敦煌学は日本にある」という言い方をする者もいるほどである。私は今回の式典を通じて、敦煌莫高窟の保護と研究が全世界の共同事業となった時、敦煌は中国の文化遺産ではなく、真に全人類の共通文化遺産になると信じている。

筆者略歴

一九五九年、中国上海市に生まれる。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程（油画専攻）修了後、現在、美術学部勤務。また、広州美術学院客員講師、敦煌研究院特任研究員として日中文化交流の発展に尽くしている。

日中韓文化交流フォーラム報告

文化の力によって東アジアの平和と安定そして発展に貢献する——その願いのもとに
スタートしたこのフォーラムも数えて10回。今回の開催地は韓国第二の都市
釜山です。文化交流イベントの会場では、あのメロディーも流れて……。

財団専務理事
小宮 浩
(こみや ひろし)



節目の年……

第10回日中韓文化交流フォーラムは、
昨年(2014年)の十月七日から十日までの日程で、
韓国第二の都市である釜山広域市で開
催されました。折り返し「第19回釜山
国際映画祭」も開催中とあって、釜山
の街は活気にあふれていました。
そうした設定の通り、今回のフォー



ウェスティン朝鮮ホテルから見た海雲台の光景

ラムのテーマは「日中韓映画製作の現
況及び相互協力」です。

フォーラムの会場でもあり、代表団
の宿舎ともなったのは、リゾート地と
しても知られる海雲台にあるウェステイ
ン朝鮮ホテル。ハワイのワイキキ・ビー
チを思わせるような地に建つこのホテル
は海側のドアを開ければもう渚です。

中国側は陳昊蘇委員長以下七名。韓
国側は鄭求宗委員長以下八名。日本は
国際交流基金顧問の小倉和夫委員長以
下八名。これが三カ国の代表団の陣容
です。財団からは宮田亮平理事長以下
三名が参加しました。

十月七日の徐秉洙釜山市長主催の飲
迎晩餐会には外務省から松井貞男総領
事と佐藤勝公使兼日本公報文化院長の
おふたりが駆けつけてくださいました。

ここ数年、日中、日韓をめぐる政治
情勢は厳しい状態にあります。晩餐
会は韓国料理に舌鼓を打ちながらの和
気藹々の雰囲気支配しておりました。

この夜、私たちは赤崎勇、天野浩、
中村修二の三先生がノーベル物理学賞
の栄に浴したニュースに接し喜びを分
かちあいました。

フォーラムで語られたこと

十月八日、午前九時より韓国の李康

現していただきたいと思えます。

最後に小倉、宮田の両氏から三カ国
共同で陶器製作することが提案され、
韓中も賛意を表したため、具体的な計
画立案に入ることになりました。そし
て本年、中国での再会を約してフォー
ラムは無事終了しました。

フォーラムの会場を出てホテルのテ
ラスに出ると遠く南の水平線に對馬
の山々が見えます。まさにここは日本
とは文字通り一衣帯水の地であること
を実感せざるをえません。

その対馬海流のせいでしょうか、釜
山の秋の訪れはもう少し先のように思



映画の殿堂小劇場にて。右から宮田亮平、黄丹、堀越謙三、小倉和夫、陳昊蘇、鄭求宗、孔魯明、權丙鉉、李元泰の各氏



ホヨン・エンジェルズ合唱団の皆さん

民事務局長の司会・進行でフォーラム
開始。

ホスト国である韓国の鄭委員長、続
いて中国の陳委員長、そして小倉委員
長の順で挨拶。三人の委員長が異口同
音に主張されたのは、政治情勢が厳し
い時こそ文化交流の果たす役割が大き
いことを改めて認識しようではないか、
ということでした。

そして本題の映画です。宮田亮平委
員からは東京藝術大学における日中韓
の学生による映画製作の共同研究とそ
の成果が報告されました。

同じような試みは韓中兩國でも行わ
れていることも紹介され、計らずも各
国の映画への関心の高さを知る機会
となりました。

映画のもつ無限の表現力をどう生か
していくか、そして映画の持つ力を使
って三カ国でやれることは何か、とい
った課題が熱心に討議され、各委員の
熱い演説が続いた次第です。

映画は啓蒙力、宣伝力を持つと同時に
に人々にとって娯楽でもあります。

そういった観点から、中国側から日
韓兩國でも人気のある「三国志」を共
同製作するのは、どうかといった提案
も飛び出しフォーラムは大いに沸きま
した。

えました。

「わたしは未来」の歌声と共に

午後は会場を映画の殿堂・小劇場に
移し、文化交流イベントに臨みました。

最初に披露されたのは、釜山伝統文
化協会に所属する李惺薫さんによる東
萊鶴の舞。続いて浩然エンジェルズ合
唱団が紹介されました。この合唱団は
小学校三年生から六年生までの生徒か
ら成る混声合唱団。透明感のある美し
い声がとても印象的でした。「世界に住
む」「風になったら」という曲のあと「わ
たしは未来」を三カ国の言葉で暗譜で
歌ってくださいました。

昨年の佐渡に続き、今回は韓国は釜
山の地です。正直、感動しました。わ
が宮田理事長共々「プラボ」と声を
張り上げてしまった次第です。

その後、日本の「旅するボール」、中
国の「シャン・シャン」、韓国の「月傾
けば」という三本の短編映画が上映さ
れました。いずれも印象深い佳作でし
た。

公式行事は無事終了。この夜は日本
同様釜山でも皆既月食が見られました。
月が地球の影に入るにつれ、海上遠く
漁火が夜空に浮かび上がり、なんとも
幻想的な雰囲気味わいました。

十月九日。この日は午前中は釜山か
ら北へ七〇キロの地にある蔚山広域市
へ。蔚山は捕鯨基地として知られた町。
十六世紀末の文祿・慶長の役の時に加
藤清正が築いたという西生浦倭城を見
学。
午後は松広寺、海印寺と並び朝鮮三



フォーラムの会場

日中韓映画製作の現場から

休憩をはさんでフォーラムの後半は、
専門家による講演。

講師は中国は黄丹・北京映画大学教
授。日本は堀越謙三・東京藝術大学名
誉教授・特別教授。韓国は金亨駿(韓
脈文化代表)。

黄丹氏は二〇〇四年に「北京市十大
映画人」に選定されたシナリオ作家、
映画監督、製作者で中国映画界の重鎮。

堀越氏は藝大大学院映像研究科で教
壇に立つ一方で、一九九九年にNPO
法人映画美術学校を設立。ここでは著名
な映画監督の経験と知識を学生に教授
し、人材育成に取り組んでこられたま
した。日本におけるフランス映画紹介に
よる貢献で二〇〇九年にフランス芸術
文化勲章を受章されています。

金亨駿氏は韓国映画製作協会会長や
韓国映画アカデミー招聘教授等を歴任。
現在は韓日文化交流会議委員や韓・E U
文化協力委員会諮問委員等の職にもあ
り、一九八九年から二〇一三年まで「シ
ルミド(美尾島)」や「光海(王になっ
た男)」など多くの話題作の製作、配給



加藤清正が築いた西生浦倭城。熊本城の石垣に見られる武者返しの技術が使われている

大寺と称される通度寺へ。靈鷲山通度
寺は仏舎利が安置されていることで知
られる名刹にして古刹です。

フォーラムの一行は御住職の圓山道
明師の法話を拝聴。そして仏舎利が納
められている戒壇を拝礼し、通度寺を
後にしました。

* * *

政治的には緊張が続く日中、日韓の
関係ですが、今回も「日中韓文化交流
フォーラム」は尊敬の念を持って、互
いの友情を確信する場ともなり、恙な
く終了いたしました。

釜山市の皆さま、このたびは大変お
世話になりました。また韓中の関係各
位の御努力に敬意を表すると共に感謝
申し上げます。ありがとうございます。



日本「筆」物語

③ 伝統文化を後世に伝えるために

科学・技術の進歩によって機械化が進んでも最後は人の力が頼りの物作りの世界がある。筆作りもその一つ。経験が重要な要素となる筆作りの世界が直面する課題は……。



清農堂主人
阿部信治 (あへしんじ)

後継者育成という課題

私自身は四十年近く筆づくりの仕事が続けていますが、一生の仕事として筆作りを続ける事が出来たのは、様々な人に支えてもらった御蔭と実感しています。まず第一に挙げなければならないのは、実際に私たちが作った筆や刷毛を御使いいただいている日本画家の方々や、日本画に志を持ち、日々勉強している皆さんの存在です。

どんなに良い筆を作ったにしても、日本画が無用なものになれば、私たちの仕事はすぐ消滅してしまいます。また、前回は原毛の話でしたが、原毛を供給してくれる商社、軸問屋、木工屋、塗師屋など、一本の筆や刷毛が出来上がるまでには、多くの方々の支えが不可欠です。

しかしながら、社会情勢の変化や後継者不足等の様々な問題により、これらの業者も現在、存続の危機に立っているところがほとんどです。親しかった下町の刷毛板屋さんや塗師さんも廃業し、その都度私自身、仕事を続けるために全国を飛び回る事になります。筆師



工房風景

誇りと自信をもって未来へ

私自身は、悪く言えばかなりではありません。近年、多くの美術大学や美術館で素材に注目した講義が行われるようになりました。私達も東京藝術大学や私立の美術大学で筆講義を担当させて頂いていますが、絵具や紙などの道具についても、実習形式の講義が行われているのをよく目にします。学生達にとっては、日頃何気なく使っている道具の製造工程を知り、理解することで製作に活かせる事もあるかと思えますし、私達職人にとっても、大いに刺激を受け、新たな筆作りのヒントをもらえる貴重な場となっています。今日まで綿々と続く筆作りの技術を継承する事は勿論、これらの交流を活かし、現代の画



刷毛(左)、連筆(右)

筆者略歴

清農堂主人、一九五二年生まれ。約四十年間、日本画筆製作に従事。東京藝術大学・武蔵野美術大学等、非常勤講師。

事務局報告

平成二十六年年度助成事業の採択状況について

美術工芸	申請数	採択数	助成決定額
七	七	七	三百五十万円
建造物	申請数	採択数	助成決定額
二	二	二	五百七十万円
有形民俗	申請数	採択数	助成決定額
二	二	二	八十万円
記念物他	申請数	採択数	助成決定額
四	〇	〇	〇万円
計	五十	二十五	一千万円

平成二十六年年度助成事業の申請、採択状況について次のとおり報告します。

■文化財保存修復助成事業
二十六都府県の教育委員会から推薦があり、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

■芸術研究等助成事業
研究者からの申請に基づき、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

申請数	採択数	助成決定額
二十六	十六	七百六十万円

■国際協力事業
研究者からの申請に基づき、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

申請数	採択数	助成決定額
九	七	六百三十一万七千円

■重点助成事業
(1) 東日本大震災被災文化財復旧支援事業
九県の教育委員会から推薦があり、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

美術工芸	申請数	採択数	助成決定額
二	二	二	百一十万円

建造物	三十	二十一	二千三十万円
記念物他	四	二	百十万円
計	三十六	二十三	二千四百三十万円

(以上、平成26年5月現在)



正面：右側に全体が傾く
背面
(被災後の状況：勢至菩薩坐像「岩手県 光勝寺」)

(2) 東日本大震災被災文化財復旧支援事業 (無形文化財追加助成)
なお、無形文化財については、昨年度に引き続きバンクオブアメリカ・メリルリンチ様のご支援・ご協力を得ることができ、追加募集を行うとともに、年度当初に決定していたものも含め次のとおり追加助成を決定しました。

無形文化財	申請数	採択数	助成決定額
九	九	九	九千五百五十三万六千六百円

(以上、平成26年12月現在)

(3) 東日本大震災被災地復興支援事業
昨年度に引き続き被災地復興支援のため、スイスを代表するルツェルン・フェスティバル音楽祭が主体となって可動式コンサートホールを拠点とした音楽事業のために助成を決定しました。
○ルツェルンフェスティバル アーク・ノヴ アプロジェクト

(ARKNOVA実行委員会)

(以上、平成26年9月現在)

(4) 尼門跡寺院文化財保存修復助成事業
本事業は、平成二十二年年度から企業等のご支援を受けて毎年1件の事業に対して助成を実施しているもので、今年度は次のとおり助成を決定しました。

なお、平成二十二年年度からは東芝ブラントシステム株式会社様のご支援・ご協力を得て実施しています。
○中宮寺所蔵「紙本着色」源氏物語図屏風 (以上、平成26年12月現在)



源氏物語図屏風右隻

家に合った筆や刷毛を創り出していく事も私達の大切な役割だと思っています。

また、近代産業の恩恵を受け、筆作りの技術が向上し、効率的になっているという面もあります。軸を手鋸で切っていた以前と違い、今では電動鋸で早く正確に竹を切り落とすことができますし、「焼き締め」と呼ばれる穂首作りの最終工程において、昔は炭をおこして銚を焼いていたのですが、今は電気銚のプラグをコンセントに差し込むだけで十分です。

接着剤については、扱いが難しい漆に代わって信頼性の高いものが次々に出てきて、刷毛の毛抜けも減少し、品質は大幅に向上しました。

最後に、私に筆作りを仕込んでくれた先代宮内親房は、宮内得應の孫に当たります。得應の息子六人全員が筆師の稼業を継いだと聞いていますが、途中、太平洋戦争の惨禍もあり、孫の代まで筆作りの仕事を続けたのは親房ただ一人でした。親房の末娘と結婚した私が最後の弟子ということになります。

私は還暦を過ぎましたが、さいわい筆作りの仕事は息子が継ぎ、もう六年目になります。何処へ行っても三十歳の息子が最年少というのも困ったものですが、先代から伝えられた技術を次の代に正確に伝えていくべく、日々仕事を続ける今日このごろです。

※棒状の乾燥した膠(にかわ)。一貫目(3.75kg)が三千本になることからこう呼ばれた。

お願い

◎東日本大震災被災文化財の救援と復旧のための募金のお願い

東日本大震災によって被災した文化財の保全に向けて、募金活動を行っています。

銀行振込

三井住友銀行 上野支店
普通 6615496
(公財)文化財保護・芸術研究助成財団

郵便振替

振替番号 001601512319
(公財)文化財保護・芸術研究助成財団
(※)通信欄に「地震」とお書きください

◎賛助会員ご入会並びにご寄付(前記のご寄付を除く)のお願い

〈賛助会員〉

当財団では、財団の活動趣旨にご理解、ご賛同をいただき、恒常的にご支援いただけた法人、個人の賛助会員を募集しています。

法人正会員 年額(1口) 50万円
個人正会員 年額(1口) 1万円
維持会員 年額(1口) 10万円

「文化財保存修復支援募金」を選択
「クレジットカードで募金」又は

「Tポイントで募金」を選択して募金
(2)銀行振込又は郵便振替

「YAHOO! JAPAN ネット募金」入力
「YAHOO! JAPAN ネット募金」入力

「文化財保存修復支援募金」を選択
「クレジットカードで募金」又は

「Tポイントで募金」を選択して募金
(2)銀行振込又は郵便振替

「YAHOO! JAPAN ネット募金」入力
「YAHOO! JAPAN ネット募金」入力

「文化財保存修復支援募金」を選択
「クレジットカードで募金」又は

「Tポイントで募金」を選択して募金
(2)銀行振込又は郵便振替

「YAHOO! JAPAN ネット募金」入力
「YAHOO! JAPAN ネット募金」入力

る契約を締結してあります。信託に関する詳細につきましては、みずほ信託銀行にお問い合わせください。

「社会貢献」をテーマとした寄付金機能付きクレジットカードによる寄付も受け付けています。

「社会貢献」をテーマとした寄付金機能付きクレジットカードによる寄付も受け付けています。

「社会貢献」をテーマとした寄付金機能付きクレジットカードによる寄付も受け付けています。

「社会貢献」をテーマとした寄付金機能付きクレジットカードによる寄付も受け付けています。

「社会貢献」をテーマとした寄付金機能付きクレジットカードによる寄付も受け付けています。

「社会貢献」をテーマとした寄付金機能付きクレジットカードによる寄付も受け付けています。

「社会貢献」をテーマとした寄付金機能付きクレジットカードによる寄付も受け付けています。

「社会貢献」をテーマとした寄付金機能付きクレジットカードによる寄付も受け付けています。

お知らせのご案内

平成二十七年助成金の申請に関するお知らせ

平成二十七年助成事業にかかる助成金申請については、左記のとおり受け付けを行います。

◎税金上の優遇措置
当財団は、「公益財団法人」としての認定を受けておりますので、当財団への寄付金には税法上の優遇措置が適用され、所得税、法人税等の控除が受けられます。

◎例年実施の文化財の保護、芸術研究に係る助成事業

平成二十七年一月十日(二月末日(必着)
東日本大震災被災文化財復旧支援事業

平成二十七年二月末日(必着)
2015年版文化財保存修復支援力レズンダープレゼントの応募状況等についてお知らせ

当財団では毎年カレンダー募金を実施しています。当財団の活動と募金の趣旨を広く知っていただき、ご理解とご協力を得るためカレンダープレゼント募集を行いました。

今号の表紙

平山郁夫 羊群帰牧図

今年の干支の「未」に因んで平山画伯の作品から羊にまつわるエピソードを紹介。

一九六六年、画伯は東京藝術大学の中学生オリエント遺跡学術調査団の一員としてトルコのアナトリア高原中央にある、当時は電気もひかれていなかったイヒララ村という寒村に滞在していた。

洞窟修道院の壁画模写とその調査であった。ホテルなどなく、宿舎は粗末な家だったとのこと。調査団はここに四ヶ月ほど滞在した。

ふだんは静寂な環境だが、朝は別世界だった。宿舎の前を羊や牛が大きな鳴き声をあげて通るので、朝寝などしてられない。画伯はこう述懐している。

「人との接触が極めて少ない世界に居ると羊でも牛でも、周囲の生き物が仲間に見えるから不思議ですね」

本作品は、アナトリア高原の体験が凝縮されて生まれた画伯の前期を飾る代表作の一つと言えよう。

本作品は、アナトリア高原の体験が凝縮されて生まれた画伯の前期を飾る代表作の一つと言えよう。

本作品は、アナトリア高原の体験が凝縮されて生まれた画伯の前期を飾る代表作の一つと言えよう。

本作品は、アナトリア高原の体験が凝縮されて生まれた画伯の前期を飾る代表作の一つと言えよう。

本作品は、アナトリア高原の体験が凝縮されて生まれた画伯の前期を飾る代表作の一つと言えよう。

編集後記

皆様御機嫌よく新年を祝われたことと拝察いたします。年の瀬の衆議院解散、そして総選挙にはいざさか驚かされましたが、相変わらずの投票率の低さは残念なことです。

日本の国債の評価をワンランク下げた格付け機関がありました。財務省ならずとも違和感を覚えた方は多かったのではないのでしょうか。

時の流れは一秒たりとも停まることはありません。東日本大震災から四年目の時をまもなく迎えます。本年も被災文化財の復旧・支援事業は有形・無形を問わず行っています。

文化・芸術を大切にすることは世界に誇る国の力でもあると思います。本年も私たちスタッフ一同、財団の名に恥じないよう努力してまいります。しかし、財団をとりまく環境は年々厳しくなっております。前年にも増して皆さま方のあたたかい御理解と御支援を賜れば嬉しく思います。

文化・芸術を大切にすることは世界に誇る国の力でもあると思います。本年も私たちスタッフ一同、財団の名に恥じないよう努力してまいります。しかし、財団をとりまく環境は年々厳しくなっております。前年にも増して皆さま方のあたたかい御理解と御支援を賜れば嬉しく思います。

文化・芸術を大切にすることは世界に誇る国の力でもあると思います。本年も私たちスタッフ一同、財団の名に恥じないよう努力してまいります。しかし、財団をとりまく環境は年々厳しくなっております。前年にも増して皆さま方のあたたかい御理解と御支援を賜れば嬉しく思います。

文化・芸術を大切にすることは世界に誇る国の力でもあると思います。本年も私たちスタッフ一同、財団の名に恥じないよう努力してまいります。しかし、財団をとりまく環境は年々厳しくなっております。前年にも増して皆さま方のあたたかい御理解と御支援を賜れば嬉しく思います。

文化・芸術を大切にすることは世界に誇る国の力でもあると思います。本年も私たちスタッフ一同、財団の名に恥じないよう努力してまいります。しかし、財団をとりまく環境は年々厳しくなっております。前年にも増して皆さま方のあたたかい御理解と御支援を賜れば嬉しく思います。

文化・芸術を大切にすることは世界に誇る国の力でもあると思います。本年も私たちスタッフ一同、財団の名に恥じないよう努力してまいります。しかし、財団をとりまく環境は年々厳しくなっております。前年にも増して皆さま方のあたたかい御理解と御支援を賜れば嬉しく思います。

文化・芸術を大切にすることは世界に誇る国の力でもあると思います。本年も私たちスタッフ一同、財団の名に恥じないよう努力してまいります。しかし、財団をとりまく環境は年々厳しくなっております。前年にも増して皆さま方のあたたかい御理解と御支援を賜れば嬉しく思います。

文化・芸術を大切にすることは世界に誇る国の力でもあると思います。本年も私たちスタッフ一同、財団の名に恥じないよう努力してまいります。しかし、財団をとりまく環境は年々厳しくなっております。前年にも増して皆さま方のあたたかい御理解と御支援を賜れば嬉しく思います。

文化・芸術を大切にすることは世界に誇る国の力でもあると思います。本年も私たちスタッフ一同、財団の名に恥じないよう努力してまいります。しかし、財団をとりまく環境は年々厳しくなっております。前年にも増して皆さま方のあたたかい御理解と御支援を賜れば嬉しく思います。



リニューアルされた黒田記念館

また、黒田記念室では六週間ごとに作品を展示替えし所蔵作品を紹介いたします。

展示期間 一月二日(金)〜二月一日(日)

〈黒田記念室〉

第一回 一月二日(金)〜一月十二日(月)
第二回 三月二十三日(月)〜四月五日(日)
第三回 十月二十七日(火)〜十一月八日(日)

(特別室)

④特別展「インドの仏 仏教美術の源流」
三月十七日(火)〜五月十七日(日)
⑤特別展「鳥獣戯画―京都高山寺の至宝―」
四月二十八日(火)〜六月七日(日)
⑥リニューアルオープン黒田記念館

○オルガン演奏会

大津波に遭った陸前高田市立博物館所蔵リードオルガンの、修復後の音色をお楽しみいただけます

第一日 一月三十一日(土)
第二日 二月二十一日(土)
第三日 三月十四日(土)

時間 各日とも十一時、十三時、十六時
場所は、本館大階段

④特別展「インドの仏 仏教美術の源流」
三月十七日(火)〜五月十七日(日)
⑤特別展「鳥獣戯画―京都高山寺の至宝―」
四月二十八日(火)〜六月七日(日)

⑥リニューアルオープン黒田記念館
耐震工事のため休館していましたが二年九ヶ月ぶりにリニューアルオープンしました。

増えます。黒田の名作をご覧いただける展示室(特別室)を新たに設け、年三回公開します。

また、黒田記念室では六週間ごとに作品を展示替えし所蔵作品を紹介いたします。

展示期間 一月二日(金)〜二月一日(日)

展示期間 一月二日(金)〜二月一日(日)

展示期間 一月二日(金)〜二月一日(日)

展示期間 一月二日(金)〜二月一日(日)

展示期間 一月二日(金)〜二月一日(日)

展示期間 一月二日(金)〜二月一日(日)

る助成事業

平成二十七年一月十日(二月末日(必着)
東日本大震災被災文化財復旧支援事業

平成二十六年十二月十日(必着)
2015年版文化財保存修復支援力レズンダープレゼントの応募状況等についてお知らせ

当財団では毎年カレンダー募金を実施しています。当財団の活動と募金の趣旨を広く知っていただき、ご理解とご協力を得るためカレンダープレゼント募集を行いました。

当財団では毎年カレンダー募金を実施しています。当財団の活動と募金の趣旨を広く知っていただき、ご理解とご協力を得るためカレンダープレゼント募集を行いました。